

Herz und Mund und Tat und Leben

Herz und Mund und Tat und Leben muß von  
Christo Zeugnis geben  
ohne Furcht und Heuchelei, daß er Gott  
und Heiland sei.

Mund und Tat und Leben

und Mund und  
und Leben muß von

Christo Zeugnis geben

ohne Furcht und  
Heuchelei, daß er Gott  
und Heiland sei.

Herz und Mund

Herz und Mund un

Christo

*Winzler*

nd Mund und Tat und Leben

und und Tat und Leben muß von  
Christo Zeugnis geben  
ohne Furcht und Heuchelei, daß er Gott  
und Heiland sei.

Tat und Leben muß von

zeugnis geben

Heuchelei, daß er Gott

eiland sei.

Herz und Mund und Tat u

Herz und Mund  
und Tat und Leben mu

Christo Zeugnis gel  
ohne Furcht und Heuc  
daß er Gott und Heila

nd und Tat und Leben

nd Tat und Leben muß von

o Zeugnis geben

d Heuchelei, daß er Gott

後援: **JCDA** 日本合唱指揮者協会

Herz und Mund und Tat und Leben

Herz und Mund und Tat und Leben muß von  
Christo Zeugnis geben  
ohne Furcht und Heuchelei, daß er Gott  
und Heiland sei.

# Ensemble 14 / 14te. Konzert

2008.11.16(日) 14:00 開演

川口総合文化センター リリア音楽ホール

Christo Zeugnis geben  
ohne Furcht und Heuchelei, daß er Gott  
und Heiland sei.

Tat und Leben muß von  
Christo Zeugnis geben  
ohne Furcht und Heuchelei, daß er Gott  
und Heiland sei.

Herz und Mund und Tat und  
Herz und Mund  
und Tat und Leben muß  
Christo Zeugnis geben  
ohne Furcht und Heuchelei, daß er Gott und Heiland sei.

nd und Tat und Leben muß von  
Christo Zeugnis geben  
ohne Furcht und Heuchelei, daß er Gott  
und Heiland sei.

本日はEnsemble 14の、これまた14回目の演奏会によろしくお越しくございました。舞台上では皆様に巨大な後姿をお見せする時間が長くなりますので、この場をお借り致しまして厚く御礼申し上げます。バッハの愛した14 (B=2 A=1 C=3 H=8 合計14) の数字をグループの名前に使わせて頂いて発足したこの団も、今年の8月に結成10周年を迎える事が出来ました。これは偏に本日ご来場頂きましたお客様方のご支援ご鞭撻の賜物であり、この団発足時に、特に様々なご協力を頂きました元メンバー、このグループが出来るきっかけを作ってくださいました、日本基督教団奥沢教会のご協力の下に組織されておりました当時の「マタイを歌う会」(現「奥沢オラトリオ合唱団」)の皆様、そしていつも我々の拙い演奏を支えてくださるMillennium Bach Ensembleのオーケストラの皆様、時々借り出された超一流のソリストの皆様、そして各団員の試行錯誤を個人レッスンで支えて下さった声楽の先生方に、重ねて心からの御礼を申し上げます。

これほどまでに御礼を申し上げます理由は、私が今日、合唱指揮者として、また声楽家としての活動を許された根幹・基礎であります、バッハのカンタータの演奏を、自らの指揮で常に演奏を出来ると言うグループを与えられているこの現状に対してであります。アマチュアの合唱団の運営と言う立場から申し上げれば、決して合唱曲は多くなく、ソリストは必要だしオーケストラは必要だし曲毎にオーケストラの編成は違う訳で、様々な意味で不経済な活動に成りがちなバッハのカンタータではありますが、自分達の仲間内からオーディションによりましてソリストを選出し、演奏させて頂く事で、各団員の意識と申しましょうかモチベーションとでも申しましょうか、かなり理想的な形に近付きつつあると自負致しております。無論見ての通り、これからこそが働き盛りの連中ですので、様々な事由によりまして集まりの悪い練習日もございますが、今後も夫々が、演奏・演奏会・練習・そしてこのグループで、バッハをより楽しむためには、できる限り、例え短い時間でも練習に顔を出そうと、私も含めて誓い合いたいところです。

不誠実なのにプライドの高いアマチュアの演奏は、必ずやグループの内外でおかしな人間関係を生む原因に成ります。良い時間の共有以外にアマチュアの名演は有り得ますまい!「バッハの曲を紹介するグループではなく、バッハに浸るこの団の練習時間にしたい!」これが私の今の、そして我々のこれからの10年に期待する事であるのです。そんな思いに賛同して下さる方々のご参加を、我々Ensemble 14は何時でもお待ちしております。

辻 秀幸



プログラム  
Programm



作曲 ヨハン・ゼバスティアン・バッハ  
Johann Sebastian Bach (1685-1750)

カンタータ第 78 番『イエスよ、あなたは私の魂を』  
“Jesu, der du meine Seele” BWV78

(2) 木藤 裕子 [S] / 柿原 紀子 [A] (3) 羽田 耕太郎 [T]  
(4) 室橋 義明 [T] (5) 菅野 松佐登 [B] (6) 三浦 貴博 [B]

カンタータ第 12 番『泣くこと、嘆き、不安、おののき』  
“Weinen, Klagen, Sorgen, Zagen” BWV12

(3) 重野 真奈美 [A] (4) 小田 奈穂子 [A]  
(5) 下平 泰裕 [B] (6) 中西 隆紀 [T]

～ 休 憩 ～

カンタータ第 147 番『心と口と行いと生き方が』  
“Herz und Mund und Tat und Leben” BWV147

(2) 内藤 秀司 [T] (3) 湊 佳代 [A] (4) 木下 剛 [B]  
(5) 室橋 明美 [S] (7) 羽田 耕太郎 [T]  
(8) 小田 奈穂子 [A] (9) 武内 崇史 [B]

指揮 辻 秀幸

管弦楽 Millennium Bach Ensemble

声楽 Ensemble 14

# カンタータ第 78 番「イエスよ、あなたは私の魂を」

## “Jesu, der du meine Seele” BWV78

用途：三位一体節後第 14 日曜日

初演：1724 年 9 月 10 日 ライプツィヒ

福音書：ルカによる福音書 第 17 章 11-19 節（イエスが重い皮膚病の人を癒す）

J. リストの同名コラールに基づくコラール・カンタータ。福音書章句の語る、重い皮膚病を患った人の治癒をふまえ、より本質的な癒し、すなわち「キリストの受難による魂の救い」というテーマを歌う。

### 1. コラール合唱（定旋律ソプラノ）

パッサカリア形式にコラールを組み込んだ雄大な合唱。主題はラメント・バス（嘆きの低音。BWV12 でもみられる）の類型による半音下降句で、受難の悲劇性を表現するが、その意義が「救済」であることを明らかにするように、次第に活発なリズムが勢いを増してくる。

### 2. アリア（二重唱：ソプラノ／アルト）

喜ばしく主のもとへ急ぐ、キリスト者の「たゆまざる歩み」が、懸命さを表すかのような通奏低音に乗って歌われる。eilen（急ぐ）という言葉に付けられた、踊るようなメリスマが印象的。

### 3. レチタティーヴォ（テノール）

一転、厳しい口調で我が身の罪を告白し、その重さに呻く。最後、救い主への悲痛な呼びかけの部分はアリオソとなる。

### 4. アリア（テノール）

キリストが十字架上で流した血によって罪を赦された心は、新たに力強く前進していく。終わり近く、Streit（戦い）の激しいメリスマに対し、stehet（（イエスが）側に立つ）は長い音符で表される。

### 5. レチタティーヴォ（バス）

キリストの受難、勝利、審判、祝福と愛について、その意義を改めて歌う。歌詞に即してテンポ、器楽とも様々に変化し、内容をきわめて表現豊かに描き出している。

### 6. アリア（バス）

オーボエ協奏曲風の器楽伴奏にのせ、主への揺るぎ無い信頼を歌う。

### 7. コラール（合唱）

改めて神の助力と励ましを祈り、曲を締め括る。簡素な和声付けは、ここまでの多彩な展開を越え、心静かに「美しき神の国」を願うかのようなのである。

# カンタータ第 12 番「泣くこと、嘆き、不安、おののき」

## “Weinen, Klagen, Sorgen, Zagen” BWV12

用途：復活節後第 3 日曜日

初演：1714 年 4 月 22 日 ヴァイマル

福音書：ヨハネによる福音書 第 16 章 16-23 節（イエスの別れの言葉；あなたがたの悲しみは喜びに変わる）

悲しみが喜びに変わるというイエスの言葉（福音書章句）をふまえて、悲しみと喜びの対立をテーマとしている。前者に半音階下降、後者に全音階上行の音型が当てられ、さらに後者で終結コラールの旋律を暗示し（第 3、5 曲）悲嘆から信頼への転換という音楽的統一がなされている。

### 1. シンフォニア

ヘ短調は、バツハが強い悲嘆の表現に好んだもの。弦に伴奏されたオーボエの調べは、イタリア様式の協奏曲の緩徐楽章を彷彿とさせる。

### 2. 合唱

主題部分ではラメント・バス（嘆きの低音）に基づくシャコンヌとして構築され、半音階下降が多用された不協和音により、苦悩が表現されている。この部分は「ロ短調ミサ曲」の Crucifixus（十字架につけられ）に転用された。テンポが速まる中間部は、モテット風の曲想となる。

### 3. レチタティーヴォ（アルト）

「艱難」の先にあるのは神の御国。伴奏で、第 1 ヴァイオリンが全体を通してハ長調音階を上行する（終結コラール旋律の拡大）のに対し、低音部はハ短調音階を下降し、喜び（神の国への到達）と悲しみを象徴する。

### 4. アリア（アルト）

十字架と王冠、戦いと宝は同一である、すなわちキリスト者にとってイエスの受難こそが慰めとなると歌う。

#### 5. アリア (バス)

キリストに従う決意が喜ばしく歌われる。コラール旋律に基づく主題が、「従う」様を象徴するカノンの書法によって提示される。

#### 6. アリア (テノール)

オスティナート風低音にのせ、「忠実なれ」の戒めが歌われる。トランペットが「イエスよわが喜び (BWV227)」のコラール旋律を奏する。

#### 7. コラール (合唱)

4声にトランペットのオブリガート声部が加わり、「神のなさることは善きこと」と締めくくる。

---

## カンタータ第 147 番「心と口と行いと生き方が」

“Herz und Mund und Tat und Leben” BWV147

用途：マリアのエリザベト訪問の祝日

初演：1723年7月2日 ライプツィヒ

福音書：ルカによる福音書 第1章 39-56節 (マリアのエリザベト訪問、マリアのほめ歌)

「主よ、人の望みの喜びよ」として有名なコラールを含む作品。ヴァイマル時代最後のカンタータ BWV147a (未完・一部消失) を原曲とし、これを改作して二部構成・全10曲の作品に仕立てた。

福音書章句は、マリアがエリサベト (洗礼者ヨハネの母) からイエスの受胎を祝福され、感動して神を讃える箇所。カンタータの台本としては、この喜ばしい情景と人間の罪深さを比較し、次第にイエスへの愛と賛美を歌っていく。

### <第1部>

#### 1. 合唱

トランペットに導かれる壮麗な冒頭合唱。メリスマが華やかなフーガで始まり、途中やや落ち着いた部分を挟み、再び冒頭の雰囲気を取り戻して終わる。

#### 2. レチタティーヴォ (テノール)

前半はマリアが神を賛美する情景を歌い、後半は対照的に人間の罪深さを指摘する。

#### 3. アリア (アルト)

魂に対する信仰告白の勧め。オーボエ・ダモーレの伴奏は、8分音符や時に混ざる16分音符の動きが印象的であると同時に、どこか落ち着かなげな魂の様子を表しているかのようである。

#### 4. レチタティーヴォ (バス)

マリア賛歌にちなんでルカ伝に歌詞を取り、神への信仰をもって心を備えよと説く。

#### 5. アリア (ソプラノ)

「信じる魂」が期待を込めてイエスにその慈愛を願う。ヴァイオリンの3連音符が印象的。

#### 6. コラール (合唱)

その旋律があまりにも有名なコラール。イエスを心に持つことの幸せを歌う。

### <第2部>

#### 7. アリア (テノール)

イエスへの助けを求めるアリア。チェロの奏でる3連音符のリズムは、後半で brenne (燃える) という言葉の部分で歌にも印象的に現れる。

#### 8. レチタティーヴォ (アルト)

2本のオーボエ・ダカッチャの伴奏による、彩り豊かなレチタティーヴォ。テキストはマリアのエリサベト訪問 (福音書章句) をふまえたもの。

#### 9. アリア (バス)

冒頭合唱に回帰するようなトランペットの前奏を受け、イエスの偉業を力強く賛美する。

#### 10. コラール (合唱)

6曲目と同じ旋律。再びイエスに対する賛美と喜びを歌い、曲を閉じる。

---

### <参考文献>

『バハ事典』(編著：磯山 雅・小林義武・鳴海史生/東京書籍)

『作曲年代順による バハ教会カンタータ全集 別冊解説書』(編集・文責：日本コロムビア㈱)

Kantate Nr. 78  
Jesu, der du meine Seele

1. Chor

Jesu, der du meine Seele  
Hast durch deinen bitteren Tod  
Aus des Teufels finstern Höhle  
Und der schweren Seelennot  
Kräftiglich herausgerissen  
Und mich solches lassen wissen  
Durch dein angenehmes Wort,  
Sei doch itzt, o Gott, mein Hort!

2. Arie (Duett: Sopran und Alt)

Wir eilen mit schwachen, doch emsigen Schritten,  
o Jesu, o Meister, zu helfen zu dir.  
Du suchest die Kranken und Irrenden treulich.  
Ach höre, wie wir  
die Stimme erheben, um Hülfe zu bitten!  
Es sei uns dein gnädiges Antlitz erfreulich!

3. Rezitativ (Tenor)

Ach! ich bin ein Kind der Sünden,  
Ach! ich irre weit und breit.  
Der Sünden Aussatz, so an mir zu finden,  
verläßt mich nicht in dieser Sterblichkeit.  
Mein Wille trachtet nur nach Bösen.  
Der Geist zwar spricht: ach! wer wird mich erlösen?  
Aber Fleisch und Blut zu zwingen  
Und das Gute zu vollbringen  
ist über alle meine Kraft.  
Will ich den Schaden nicht verhehlen,  
so kann ich nicht, wie oft ich fehle, zählen.  
Drum nehm ich nun der Sünden Schmerz und Pein  
und meiner Sorgen Bürde,  
so mir sonst unerträglich würde,  
ich liefere sie dir, Jesu, seufzend ein.  
Rechne nicht die Missetat,  
Die dich, Herr, erzürnet hat!

4. Arie (Tenor)

Das Blut, so meine Schuld durchstreicht,  
macht mir das Herze wieder leicht,  
und spricht mich frei.  
Ruft mich der Höllen Heer zum Streite,  
so stehet Jesus mir zur Seite,  
daß ich beherzt und sieghaft sei.

5. Rezitativ (Baß)

Die Wunden, Nägel, Kron und Grab,  
die Schläge, so man dort dem Heiland gab,  
sind ihm nunmehr Siegeszeichen  
und können mir verneute Kräfte reichen.  
Wenn ein erschreckliches Gericht  
den Fluch vor die Verdammten spricht,  
so kehrst du ihn in Segen.  
Mich kann kein Schmerz und keine Pein bewegen,  
weil sie mein Heiland kennt;  
und da dein Herz vor mich in Liebe brennt,  
so lege ich hinwieder  
das meine vor dich nieder.

カンタータ 第 78 番

イエスよ、あなたは私の魂を

Johann Rist 作のコラール《Jesu, der du meine Seele》による

1. コラール合唱 (定旋律ソプラノ)

イエスよ、あなたは私の魂を  
自らの悲痛な死によって  
悪魔の暗い洞穴から  
重く、深い苦しみから  
力強く救い出し、  
私にそのことをわからせてくださいました、  
あなたの心地良い御言葉で。  
どうか今こそ、おお 神よ、私の守護者であってください! [第 1 節]

2. アリア (二重唱: ソプラノ/アルト)

私たちは急ぎます、弱くとも、たゆまぬ足取りで、  
おお イエスよ、おお 師よ、救いを求めてあなたのもとへと。  
あなたは 病める者、さまよえる者を誠実に探してくださいます。  
ああ お聞きください、どんなに私たちが  
声を上げているか、救いを請い求めて!  
私たちを あなたの慈悲深い顔 (かんばせ) で喜ばせてください!

3. レチタティーヴォ (テノール)

ああ! 私は罪の子です、  
ああ! 私はあてどなくさまよっています。  
罪の腫れ物が、私に取り付き、  
離れないのです、この死すべき運命の身から。  
私の意志は 悪事ばかりを望んでいます。  
私の霊は言います、ああ! 誰が私を救ってくれるのだろうか?と。  
けれども、肉と血を制し  
そして善を成し遂げることは  
私の力全てでも及ばないのです。  
私は過ちを隠すつもりもなく、  
そして、どれほど自分が罪を犯したか数えきれません。  
ですから、私はもう 罪の痛みと苦悩  
そして、自分の不安の重荷を肩から降ろします  
そうしなければ 私は耐えられなくなるでしょうから。  
私はそれらをあなたにゆだねます、イエスよ、慄 (ふる) える声で。  
悪行を数え上げないでください、  
主よ、あなたを怒らせてきた悪行を! [第 3, 4, 5 節]

4. アリア (テノール)

この血が、私の咎を消し去り、  
私の心を再び軽くして  
私の罪を免じてくれます。  
私を、地獄の軍勢が戦いへと呼び出しても、  
イエスが私のそばにいてくださるので、  
私は勇気を持ち、勝利を確信していられるのです。

5. レチタティーヴォ (バス)

傷、釘、茨の冠、そして墓、  
殴打、人があの場で救い主に与えたものは、  
いまや主にとって勝利の証であり  
そして私に新たな力を与えてくれるのです。  
恐ろしい裁きが  
神罰を 永劫の罰を受けた者たちの前に下すとき、  
あなたはそれを祝福へと変えてくださいます。  
私を、どんな痛みも苦しみも揺るがすことはできません、  
そのことを、私の救い主は知っておられるのですから。  
そして あなたの心は私への愛に燃え、  
私はそれにお応えして  
私の心をあなたの前に捧げます。

Dies mein Herz, mit Leid vermengen,  
So dein teures Blut besprenget,  
So am Kreuz vergossen ist,  
Geb ich dir, Herr Jesu Christ.

#### 6. Arie (Baß)

Nun du wirst mein Gewissen stillen,  
so wider mich um Rache schreit,  
ja, deine Treue wirds erfüllen,  
weil mir dein Wort die Hoffnung beut.  
Wenn Christen an dich glauben,  
wird sie kein Feind in Ewigkeit  
aus deinen Händen rauben.

#### 7. Choral (Chor)

Herr, ich glaube, hilf mir Schwachen,  
Laß mich ja verzagen nicht;  
Du, du kannst mich stärker machen,  
Wenn mich Sünd und Tod anfight.  
Deiner Güte will ich trauen,  
Bis ich fröhlich werde schauen  
Dich, Herr Jesu, nach dem Streit  
In der süßen Ewigkeit.

この私の心、苦悩に乱れた心に、  
あなたのかけがえのない血を注ぎかけます、  
十字架の上で流された血を。  
その心をあなたに捧げます、主 イエス・キリストよ。

[第10節]

#### 6. アリア (バス)

いまや、あなたは私の良心を静めてくださいます、  
私に対して復讐を叫ぶ良心を。  
そう、あなたの誠実さで私は満たされるでしょう、  
あなたの御言葉は、私に希望を与えてくださるのですから。  
キリスト者たちがあなたを信じていれば、  
彼らを、どんな敵も、永遠に  
あなたの手から奪うことはないでしょう。

#### 7. コラール (合唱)

主よ、私は信じています、私の弱さを助け、  
私が勇気を失わないようにしてください。  
あなたこそが、私を強くしてくださるのです、  
罪と死が私を揺るがせる時にも。  
あなたの慈しみを私は信じています、  
私が、あなたを喜ばしく見つめるその時まで、  
主イエスよ、戦いの後の  
甘美な永遠の中で。

[第12節]

### Kantate Nr.12

#### Weinen, Klagen, Sorgen, Zagen

#### 1. Sinfonia

#### 2. Chor

Weinen, Klagen,  
Sorgen, Zagen,  
Angst und Not  
sind der Christen Tränenbrot,  
die das Zeichen Jesu tragen.

#### 3. Rezitativ (Alt)

Wir müssen durch viel Trübsal  
in das Reich Gottes eingehen.

#### 4. Arie (Alt)

Kreuz und Kronen sind verbunden,  
Kampf und Kleinod sind vereint.  
Christen haben alle Stunden  
ihre Qual und ihren Feind,  
doch ihr Trost sind Christi Wunden.

#### 5. Arie (Baß)

Ich folge Christo nach,  
von ihm will ich nicht lassen  
im Wohl und Ungemach,  
im Leben und Erblassen.  
Ich küsse Christi Schmach,  
ich will sein Kreuz umfassen.

#### 6. Arie (Tenor)

Sei getreu, alle Pein  
wird doch nur ein Kleines sein.  
Nach dem Regen  
blüht der Segen,  
alles Wetter geht vorbei.

### カンタータ 第12番

#### 泣くこと、嘆き、不安、おののき

#### 1. シンフォニア

#### 2. 合唱

泣くこと、嘆き、  
不安、おののき、  
恐れ、そして苦悩は  
キリスト者の涙の糧なのです、  
イエスの証を担うキリスト者の。

#### 3. レチタティーヴォ (アルト)

私たちは多くの苦難を経て  
神の国へ入らなければなりません。

[『使徒言行録』第14章 22節]

#### 4. アリア (アルト)

十字架と王冠は結びつけられており、  
戦いと宝は一つのものなのです。  
キリスト者にはいかなる時も  
苦難と敵があります。  
しかし、彼らの慰めとなるのが、キリストの傷なのです。

#### 5. アリア (バス)

私はキリストの後をついて行き、  
彼から離れずにいよう、  
幸せな時も、災いの時も  
生においても 死においても。  
私はキリストの恥辱に口づけし、  
彼の十字架を抱きしめよう。

#### 6. アリア (テノール)

誠実でありなさい、どんな苦痛も  
ほんの小さなものとなるだろう。  
雨の後には  
祝福が開き、  
嵐は全て過ぎ去るのだ。



## 7. Choral (Chor)

Was Gott tut, das ist wohlgetan  
Dabei will ich verbleiben,  
Es mag mich auf die rauhe Bahn  
Not, Tod und Elend treiben,  
So wird Gott mich  
Ganz väterlich  
In seinen Armen halten,  
Drum laß ich ihn nur walten.

## 7. コラール (合唱)

神のなさること、それは全く行き届いたもの、  
神のそばに私は在り続けます。  
私を この険しい道では  
苦しみ、死、そして貧しさが追い立てるでしょう。  
それで 神は私を  
まさに父親のように  
その腕の中で守ってくださいます。  
ゆえに私は ただ神の為すがままにして頂くのです。

[Samuel Rodigast 作のコラール 《Was Gott tut, das ist wohlgetan》 第 6 節]

## Kantate Nr.147

### Herz und Mund und Tat und Leben

## カンタータ 第 147 番

### 心と口と行いと生き方が

#### Erster Teil

#### 第 1 部

##### 1. Chor

Herz und Mund und Tat und Leben  
muß von Christo Zeugnis geben  
ohne Furcht und Heuchelei,  
daß er Gott und Heiland sei.

##### 1. 合唱

心と口と行いと生き方が  
キリストについての証を示さなくてはなりません  
恐れも偽りもなく、  
キリストこそ神であり救い主であると。

##### 2. Rezitativ (Tenor)

Gebenedeiter Mund!  
Maria macht ihr Innerstes der Seelen  
durch Dank und Rühmen kund;  
sie fängt bei sich an,  
des Heilands Wunder zu erzählen,  
was er an ihr als seiner Magd getan.  
O! menschliches Geschlecht,  
des Satans und der Sünde Knecht,  
du bist befreit  
durch Christi tröstendes Erscheinen  
von dieser Last und Dienstbarkeit!  
Jedoch dein Mund und dein verstockt Gemüte  
verschweigt, verleugnet solche Güte;  
doch wisse, daß dich nach der Schrift  
ein allzu scharfes Urteil trifft.

##### 2. レチタティーヴォ (テノール)

祝福された口よ!  
マリアは彼女の魂の奥底にあるものを  
感謝と賛美をもって語った。  
彼女はそれを自ら始めた、  
救い主の奇跡を伝えるために、  
救い主がその卑女 (はしため) たる彼女に為された事を。  
おお、人間よ、  
悪魔と罪のしもべよ、  
おまえは解放されたのだ、  
キリストが、慰めとなるべく現れたことによって  
この重荷と隷属から!  
けれども、おまえの口と頑なな心は  
黙り込み、否定する そんな慈しみをも。  
だが心得よ、おまえには、聖書に従い  
あまりにも厳しい裁きの下されるのだということ。

##### 3. Arie (Alt)

Schäme dich, o Seele, nicht,  
deinen Heiland zu bekennen,  
soll er dich die seine nennen  
vor des Vaters Angesicht!  
Doch wer ihn auf dieser Erden  
zu verleugnen sich nicht scheut,  
soll von ihm verleugnet werden,  
wenn er kömmt zur Herrlichkeit.

##### 3. アリア (アルト)

恥ずかしく思っはいけません、おお 魂よ、  
あなたの救い主への信仰を口にすることを。  
救い主は、あなたを自分のしもべと呼ぶでしょう  
父の御前において!  
だが、救い主をこの地上で  
否定してはばからない者は、  
彼によって否定されることになるでしょう、  
彼が、栄光の座に着かれる時に。

##### 4. Rezitativ (Baß)

Verstockung kann Gewaltige verblenden,  
bis sie des Höchsten Arm vom Stuhle stößt;  
doch dieser Arm erhebt,  
obschon vor ihm der Erden Kreis erbebt,  
hingegen die Elenden,  
so er erlöst.  
O hochbeglückte Christen,  
auf, machet euch bereit,  
itzt ist die angenehme Zeit,  
itzt ist der Tag des Heils: der Heiland heißt  
euch Leib und Geist  
mit Glaubensgaben rüsten,  
auf, ruft zu ihm in brünstigem Verlangen,  
um ihn im Glauben zu empfangen.

##### 4. レチタティーヴォ (バス)

頑迷さが権力者の目をくらませ、  
ついには、彼らを、至高の方の手がその座から追放する。  
しかし、この手は引き上げてくださる  
彼の前で、地上の全てが震えていても、  
貧しい者たちだけは  
そうして、彼は救ってくださるのだ。  
おお、大いに喜ばされたキリスト者たちよ、  
備えなさい、  
今こそ、心地良い時、  
今こそ、救いの日。救い主は言われる、  
あなたたちの肉体と霊を  
信仰の恵みで装うようにと。  
呼びかけなさい、彼に、熱い願いをこめて、  
彼を信仰の中に迎え入れるために。

### 5. Arie (Sopran)

Bereite dir, Jesu, noch itzo die Bahn,  
mein Heiland, erwähle  
die gläubende Seele  
und siehe mit Augen der Gnaden mich an.

### 6. Choral

Wohl mir, daß ich Jesum habe,  
O wie feste halt ich ihn,  
Daß er mir mein Herze labe,  
Wenn ich krank und traurig bin.  
Jesum hab ich, der mich liebet  
Und sich mir zu eigen gibet;  
Ach drum laß ich Jesum nicht,  
Wenn mir gleich mein Herze bricht.

## Zweiter Teil

### 7. Arie (Tenor)

Hilf, Jesu, hilf, daß ich auch dich bekenne  
in Wohl und Weh, in Freud und Leid,  
daß ich dich meinen Heiland nenne  
im Glauben und Gelassenheit,  
daß stets mein Herz von deiner Liebe brenne.

### 8. Rezitativ (Alt)

Der höchsten Allmacht Wunderhand  
wirkt im Verborgenen der Erden.  
Johannes muß mit Geist erfüllet werden,  
ihn zieht der Liebe Band  
bereits in seiner Mutter Leibe,  
daß er den Heiland kennt,  
ob er ihn gleich noch nicht  
mit seinem Munde nennt,  
er wird bewegt, er hüpfet und springet,  
indem Elisabeth das Wunderwerk ausspricht,  
indem Mariae Mund der Lippen Opfer bringet.  
Wenn ihr, o Gläubige, des Fleisches Schwachheit merkt,  
wenn euer Herz in Liebe brennet,  
und doch der Mund den Heiland nicht bekennet,  
Gott ist es, der euch kräftig stärkt,  
er will in euch des Geistes Kraft erregen,  
ja, Dank und Preis auf eure Zunge legen.

### 9. Arie (Baß)

Ich will von Jesu Wundern singen  
und ihm der Lippen Opfer bringen,  
er wird nach seiner Liebe Bund  
das schwache Fleisch, den irdischen Mund  
durch heiliges Feuer kräftig zwingen.

### 10. Choral (Chor)

Jesus bleibet meine Freude,  
Meines Herzens Trost und Saft,  
Jesus wehret allem Leide,  
Er ist meines Lebens Kraft,  
Meiner Augen Lust und Sonne,  
Meiner Seele Schatz und Wonne;  
Darum laß ich Jesum nicht,  
Aus dem Herzen und Gesicht.

### 5. アリア (ソプラノ)

整えてください、イエスよ、今なお この道を。  
私の救い主よ、選び取ってください、  
信じる者の魂を。  
そして、恵み深い眼差しで私を見てください。

### 6. コラール (合唱)

幸いです、私は、イエスを得ているのですから。  
おお、どれほどしっかりと私は彼をつかんでいることが、  
そうして、彼は私の心を元気づけてくださるのです、  
私が痛み、悲しんでいる時も。  
イエスを私は得ています、私を愛し、  
自身を私に与えてくださる方を。  
ああ、ですから 私はイエスを離しはしません、  
たとえ私の胸が張り裂けようとも。

[Martin Jahn 作のコラール《Jesu, meiner Seelen Wonne》第6節]

## 第2部

### 7. アリア (テノール)

助けてください、イエスよ、私もあなたへの信仰を口に出せるように、  
幸せな時も悲しみの時も、喜びの時も苦しみの時も。  
あなたを私の救い主と呼べるように、  
信仰と、安らかな心のうちに。  
そして、いつも私の心があなたへの愛に燃えているように。

### 8. レチタティーヴォ (アルト)

至高の、全能である方の奇跡の手は  
地上の目に見えぬ所で御業を行います。  
洗礼者ヨハネは霊に満たされたに違いありません  
彼を、愛の絆が引き寄せたのです  
すでに彼の母の胎内において、  
彼が救い主を見分けられるようにと。  
たとえ彼がまだ救い主を  
その口で呼ばないうちにも、  
彼は心動かされ、跳びはねたことでしょう  
エリザベトが奇跡の御業を語っているときも、  
マリアの口が唇の捧げ物をしているときも。  
あなたたちが、おお 信じる者たちよ、肉体の弱さを知るとき、  
あなたたちの心が愛に燃えながらも、  
その口が救い主への信仰を告白できないとき、  
神こそが、あなたたちをおおいに力づけるのです。  
神はあなたたちの中に霊の力を呼び起こし、  
確かに、感謝と賛美を、あなたたちの舌に置いてくださるのです。

### 9. アリア (バス)

私はイエスの奇跡について歌い  
そして彼に唇の捧げ物をしよう。  
彼はその愛の契約に従って  
弱き肉体を、この世の人々の口を  
聖なる炎で力づけてくださるだろう。

### 10. コラール (合唱)

イエスはいつも私の喜びであり、  
私の心の、慰めと力の源であり続けます。  
イエスはあらゆる苦悩を防ぎ止めてくださいます。  
彼は私の生きる力、  
私の眼の、楽しみであり、太陽であり、  
私の魂の、宝であり、至福なのです。  
ですから 私はイエスを離しはしません、  
心と目に見えるところから。

[第16節]

## ■指揮 辻秀幸

Ensemble 14 指揮者。東京芸術大学声楽科卒業 及び 同大学院独唱科修了。声楽を渡邊高之助、宗教音楽を小林道夫、佐々木正利の各氏に師事。1985年イタリアのミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。L. グウアリーニ女史、F. タリアヴィーニ、H. リリングらの各氏に師事。1986年イタリアのノバラ市国際声楽コンクール入賞。同年ドイツのハイデルベルク、1988・89年にはウィーン楽友協会大ホール、2000年にはカイザースラウテルン、パッサウ他、数都市でベートーヴェン"第9"のソリストを務め、ヨーロッパ各地でコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に各地でユニークなリサイタル活動を展開している。オペラにも数多く出演し、その優れた演技力と歌唱は、新聞・音楽誌上でも度々絶賛された。宗教音楽の演奏家としての活躍は特に目覚ましく、バッハ・ヘンデル・ハイドンの宗教曲・オラトリオの演奏では、ソリスト・エヴァンゲリストまた指揮者として、その活動は常に注目を集めている。現在指導に当たるアマチュアコーラスは十数団体を数える。洗足学園音楽大学講師、尚美学園大学新音楽集団「匠」指揮者、ぐるーぷ・なべ幹事、日本合唱指揮者協会会員、アンサンブル《BWV2001》メンバー、iARTS 理事、NHKラジオ「みんなのコーラス」レギュラー解説者。共著に「わかって歌おうーレクイエム発音講座」、「フィガロの結婚 発音講座」等がある。

辻秀幸 公式サイト：<http://www.davide-hide.com/>

## ■管弦楽 Millennium Bach Ensemble (ミレニウム・バッハ・アンサンブル)

2000年4月に田園調布教会で行われた「マタイ受難曲」演奏会において辻秀幸先生の呼びかけにより結成される。各方面で活躍中の若手演奏家からなる器楽団体。第2回演奏会以降、Ensemble 14 との共演が続いている。

ヴァイオリン	大西 律子、磯田 ひろみ	ヴィオラ	山本 法子、多井 かな
チェロ	高群 輝夫	コントラバス	木村 将之
オーボエ	藤井 貴宏、斎藤 由紀	ファゴット	笹崎 雅通
フルート	浅野 久恵	トランペット	平井 志郎
オルガン	大木 麻理		

## ■声楽 Ensemble 14 (アンサンブル・フィアツェン)

辻秀幸先生のもとでJ.S. バッハのカンタータを歌うアマチュア合唱団。1998年8月結成。ソリストは団内から選出し、プロのオーケストラ（現代楽器）と共演する演奏スタイルで、東京周辺にて活動。

指揮者：辻 秀幸                      練習ピアニスト：田城 章子  
代表：武内 崇史                    副代表：内藤 秀司、小林 尚弘、三浦 貴博  
練習指揮：椿山 俊和、菅野 松佐登、木下 剛  
会計：柿原 紀子

ソプラノ	アルト	テノール	バス
浦沢 千代	上田 暁子	小泉 孝博	木下 剛
江崎 美津子	小田 奈穂子	佐藤 容司	小林 尚弘
川村 昌子	改田 晶子	内藤 秀司	下平 泰裕
木藤 裕子	柿原 紀子	中西 隆紀	菅野 松佐登
久我 育美	小林 愛子	成田 拓也	武内 崇史
子井野 真貴子	重野 真奈美	羽田 耕太郎	次田 章
菅野 総子	竹内 望	室橋 義明	椿山 俊和
崎谷 芳恵	名倉 芳実		藤田 俊一
高橋 磯美	山形 可奈子		三浦 貴博
原田 篤子			
湊 佳代			
室橋 明美			

## 【Ensemble 14 過去の演奏会】

- 1999年4月 マタイ受難曲の抜粋演奏（ピアノ伴奏）に、「マタイを歌う会」とともに出演  
（日本基督教団 奥沢教会）
- 1999年9月 第1回演奏会 カンタータ第150番、第155番、第106番  
（ルーテル市ヶ谷センター）
- 2000年4月 マタイ受難曲の全曲演奏に第2コーラスとして出演  
（日本基督教団 田園調布教会）
- 2000年9月 第2回演奏会 カンタータ第196番、第131番、第182番  
（神奈川県民ホール 小ホール）
- 2001年3月 第3回演奏会 カンタータ第22番、第48番、第23番  
（すみだトリフォニーホール 小ホール）
- 2001年9月 第4回演奏会 カンタータ第1番、第27番、第140番  
（川口総合文化センター リリア音楽ホール）
- 2002年3月 第5回演奏会 カンタータ第36番、第61番、ミサ曲ト短調  
（三鷹市芸術文化センター 風のホール）
- 2002年9月 第6回演奏会 カンタータ第5番、第47番、第70番  
（四谷区民ホール）
- 2003年5月 第7回演奏会 ヨハネ受難曲  
（津田ホール）
- 2004年3月 第8回演奏会 カンタータ第17番、第44番、第139番、モテット BWV227  
（三鷹市芸術文化センター 風のホール）
- 2004年9月 第9回演奏会 カンタータ第4番、第6番、ミサ曲ト長調  
（横浜みなとみらいホール 小ホール）
- 2005年9月 第10回演奏会 マタイ受難曲  
（日本大学 カザルスホール）
- 2006年6月 第11回演奏会 カンタータ第8番、第99番、第105番、第187番  
（上野学園 石橋メモリアルホール）
- 2007年2月 第12回演奏会 サンクトゥスニ長調、カンタータ第10番、マニフィカト変ホ長調  
（上野学園 石橋メモリアルホール）
- 2008年1月 第13回演奏会 カンタータ第116番、第72番、第144番、第104番  
（津田ホール）



### 一緒に歌いませんか

Ensemble 14 では一緒に歌って下さる方を随時募集しております。  
バッハが大好きな方はもちろん、バッハが初めての方も歓迎です。

合唱指導 辻 秀幸 先生  
練習日 毎週土曜日（午前または午後）  
練習場所 自由が丘、武蔵小杉など  
お問い合わせ Tel：090-3816-2565（小林）  
e-mail：info@ensemble14.org  
ホームページ <http://www.ensemble14.org/>



### 第15回演奏会のご案内

2009年6月28日（日） トッパンホール

J.S. バッハ作曲

カンタータ 第46番 『考え見よ、われを襲いしこの痛み』 BWV 46

カンタータ 第62番 『いざ来ませ、異邦人の救い主』 BWV 62

ミサ曲イ長調 第234番 BWV234

Ensemble 14（アンサンブル・フィアツェン）

第14回 演奏会プログラム

発行日：2008年11月16日

発行元：Ensemble 14

校正：柿原 紀子、中西 隆紀

作成：北郷 博美

●無断転載・複製を禁じます。

©All rights reserved Ensemble 14